



1 佳代さんが選んだイギリスアンティーク調の家具が並ぶ室内 2 元の柱(濃色)に新たな柱(薄色)を添える施工方法で修復 3 直樹さんが大好きな囲炉裏 4 玄関に残る帽子掛け 5 土間への入り口

## 古荘家 櫛島

### 主屋

以前は、地区の花見で披露する踊りの練習場所としても使われていたようなので、これからも人が集い、櫛島を明るくする場所でありたいです。

## 人が集い、櫛島を明るくする場所に

直樹さん 熊本地震で甚大な被害を受け公費解体に申し込まれましたが、周りの家が壊され大好きな櫛島の景色が変わる姿を見て、この家を壊したら一生後悔すると思います。直前で解体をやめました。当時、家族には反対されましたが、松野さんに「残す価値がある」と背中を押してもらいました。

### 古荘家概要

【建設時期】江戸末期

昭和 17(1942)年に外務大臣を務めた谷正之氏の生家。昭和 39(1964)年に古荘家が譲り受け、平成 28 年熊本地震まで住居として使用。修復・改修され、現在はコミュニティーの場として活用されている。



ふるしほなおき 古荘直樹さん、かと 佳代さん



## 城本家 赤井

### 主屋・蔵

真澄さん 令和 2 年 12 月に復旧工事が完了し、現在は設計士さんに教わりながら、自分たちで居間や台所の改修を進めています。

赤井火山・赤井城跡の見学や、無農薬野菜の収穫・調理など自然を体験できる民泊にして、将来的に他の 7 軒と連携し団体の受け入れもできれ



しろもと ますみ 城本真澄さん、せいや 誠也さん

### 城本家概要

【建設時期】江戸末期～明治

赤井城跡への登り口にある大農家の住宅。敷地は、「浮き草堀」と呼ばれる城の外堀の内側に位置する。熊本地震で長屋門が倒壊。全壊の判定を受けた主屋と蔵は復旧し、城本さん夫婦が暮らしている。



1 以前は 2 棟あった蔵。現在は 1 棟が残されている 2 主屋のはなれ。客人がゆっくりお茶を楽しむ場として活用予定 3 自分たちの手で改修を進めている主屋の天井

自然と歴史を感じる民泊に